

宮城県利府町におけるブラックバスの駆除釣り

齊藤憲治

(一社)水生生物保全協会

ブラックバス類(オオクチバス, フロリダバス, コクチバス)は日本各地でブラックバス・バレン(荒野)という状況を生み(齊藤 2023), 違法放流による拡散は一向にやむ気配がない. ブラックバスにからむ違法行為は, 見つかることがまずないので, 万引きより簡単. よって, できることは日々行われている. 現状は,

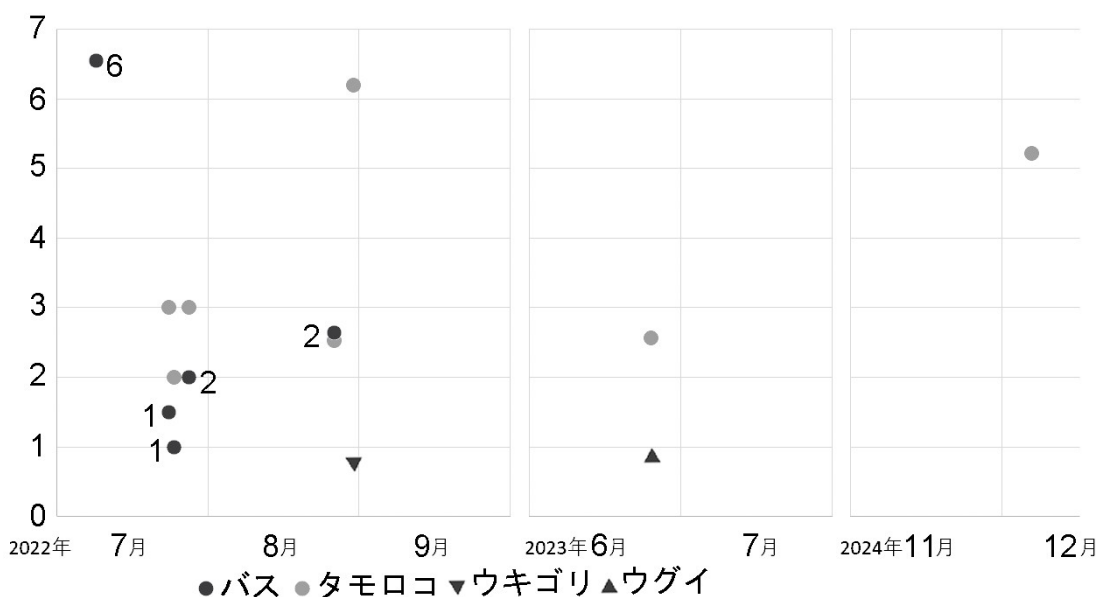
違法行為によるブラックバスバレンの拡大 > 駆除によるバレンの減少
である. 前回は, 不等式の左側を下げるための一案を報告した.

[http://biwako.eco.coocan.jp/exchange/2024/photo/saito-k\(2024\).pdf](http://biwako.eco.coocan.jp/exchange/2024/photo/saito-k(2024).pdf)

今回は, 不等式の右側を上げるための個人の活動例として, 宮城県利府町における駆除釣りの報告をする.

駆除釣りの現場は農業水路に設けられた 17m×2m の沈砂池. 上流に約 100m の片側土水路が接続しているほかには, 上下流ともに 3 面コンクリート護岸で, 水は薄いシート状に流れている. 最上流部にはオオクチバス(バス)のいるため池群があるが, 流下しても水路中では横倒しになるので, 沈砂池に生きて到達することはほぼないとみられる. 2024 年 3 月~2024 年 12 月にバスの生息が認められたのは 1 回のみ. 2022 年 7 月 9 日に全長約 10cm のバス 10 尾ほどの遊泳を目視したため, 即日駆除釣りを開始した. 仕掛けは小物釣り用で釣はキス用 7 号. エサはミミズ. アクションカメラにより映像を常時記録した.

7 月 9 日~8 月 27 日の 50 日間でバス 12 尾を釣り, 駆除したと判断した. バスの釣れ高と入れ替わりにタモロコが次第に釣れるようになっていったことも, バスがなくなったことの証左とみた. その後 27 ヶ月あまりの間に事後調査として 3 回この沈砂池で釣りをした. バスは釣れずタモロコばかり釣れる状況なので, 駆除に成功したか, または控えめに言えば低密度化に成功したと評価した.



駆除釣りの経過. 2022 年 7 月 9 日~8 月 27 日(50 日間)で駆除終了. その後 2022 年 8 月 31 日~2024 年 12 月 5 日に事後調査 3 回. 縦軸は CPUE(30 分あたりの釣獲尾数). 数字はバス釣獲尾数.

バス駆除のアラカルトとしては(1)池干し, (2)稚魚すくい, (3)人工産卵床, (4)電気ショッカー, (5)駆除釣りなどがある。(1)の池干しについては第 15 回情報交換会で報告した。

[http://biwako.eco.coocan.jp/exchange/2020/photo/saito\(2020\).pdf](http://biwako.eco.coocan.jp/exchange/2020/photo/saito(2020).pdf)

池干しは効果的だが場所に制限がある。(2)～(4)の組み合わせには場所の制限はあまりなく, 宮城県伊豆沼・内沼ではバスの低密度化に成功し, 希少魚ゼニタナゴが戻りつつある(藤本ほか 2021)。(5)の駆除釣りはだれでもでき場所の制限は一見なさそうだが, 釣りのプレッシャーが乱獲の域に達しなければ持続的漁業と区別できない。努力量(参加人数と頻度)に応じて場所の規模に制限がある。一方, 乱獲になっていない自称駆除釣りがあるとすれば, バス釣り推進派による, どうせできない駆除などやめてバス資源を有効利用して経済効果をエンジョイしようという主張(例えば遊佐ほか 2017)に力を与える。この主張を黙らせるには, できること(駆除釣りによる乱獲)を日々行うことである。できること(バスの違法放流)は日々行われているのだから。

引用文献

藤本泰文・高橋清孝・進東健太郎・斉藤憲治・嶋田哲郎. 2021. 伊豆沼・内沼におけるオオクチバス駆除活動によるゼニタナゴの復活. 魚雑 68:61–66.

斉藤憲治. 2023. ブラックバス・バレン. ボテジャコ 27:13–28.

遊佐 暁・Cristobal GGS・鄭 紫来. 2017. 野尻湖における外来魚の受容過程と資源利用. 地域研究年報 39:113–124.